

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330241041A	ICT実践演習 (2025年度生～) ICT practical exercises	山坂 菜々			1	選択	2前期
科目の概要							
本授業では、学校・保育園等でのICTの活用への理解を深め、教育の情報化について専門的な知識と技能ならびに思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性を身につけた教育者・保育者の育成をめざす(DP1,3)。そのため、教育に用いられる情報端末・デジタル機器について、思考を深め個に応じた学習を進めるためのツールとしての活用を学ぶ。これらを基に学習者がひとりまたは共同して教材を研究し、その仕上げとしてワークショップを実践することによって、情報端末・デジタル機器を効果的に活用できる知識・理解・態度を獲得することをめざす(DP5)。							
学修内容				到達目標			
① ICTの特徴と操作を学び、授業等での活用を学ぶ。 ② ICTの特徴を生かした教材等を作成する。 ③ 情報活用能力の育成の具体を学ぶ。 ④ ICTの新しい動向（生成AI等）の具体を学ぶ。 ⑤ 校務の情報化を推進するための具体を学ぶ。 ⑥ 教育者・保育者に求められるICT活用指導力の向上をめざす。				① ICTの特徴と操作を知り、実際の場面で活用することができる。 ② 作成した教材等を基に、ワークショップ等を行い、実際の場面への応用を考えることができる。 ③ 情報活用能力を、子どもに適切に指導できる。 ④ ICTの新しい動向（生成AI等）の特徴と操作を知り、実際の場面等で活用することができる。 ⑤ 校務の情報化を推進するために具体的な内容を挙げることができる。 ⑥ 教育者・保育者に求められているICT活用指導力の向上をめざす態度を示す。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	ICTの活用に関心を持ち、教育に積極的に生かそうとする。					
	働きかけ力	情報活用能力の育成の具体を知り、子どもに適切に指導できる。					
	実行力	保育・授業における教材研究を通して、適切な場面でICTを活用することができる。					
考え抜く力	課題発見力	子どもの実態把握等をとおして、どのようにICTを活用することが効果的であるかに気づくことができる。					
	計画力	ICTを活用するために、適切に機器を準備したり管理したりしながら、保育・授業等に向かうことができる。					
	創造力	ICTの活用をとおして、従来のメディアでは難しかった指導方法等を考えることができる。					
チームで働く力	発信力	ICTの効果的な活用について、他の学生等との意見交換等を通して、創造的に構築し、実際の指導に活用することができる。					
	傾聴力	ICTの効果的な活用について、他の学生や教員の意見や、ネット等で調べた知見を参考に、クリティカルに判断することができる。					
	柔軟性	ICTの効果的な活用について、実際のデータや事例を通して、自らの考えに固執することなく、取捨選択することができる。					
	状況把握力	ICTの効果的な活用について、子どもの実態に応じて、適切な指導を選択することができる。					
	規律性	予習・復習を継続的に実施し、課題等の提出期限や、他のルールを遵守することができる。					
	ストレスコントロール力	ICTの効果的な活用について、グループ学習等を通して、過度なハレーションやマウント等に陥ることなく、適切なコミュニケーションをとることができる。					
テキスト及び参考文献							
参考文献：愛知県、「みんなのネットモラル塾」テキスト、 https://www.pref.aichi.jp/soshiki/syakaikatsudo/netmoral-text.html 、2025 参考文献：文部科学省、教育の情報化に関する手引―追補版一、2020 参考文献：文部科学省、小学校プログラミング教育の手引（第三版）、2020 参考文献：梅田恭子、齋藤ひとみ監修、ICT活用指導力アップ！教育の情報化 改訂版 教員になるための情報教育入門、実教出版、2025							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：本授業は、教育原理を基礎に、「教育方法論」など教育の基礎的理解に関する科目で修得した知識を基に、ICTを活用した実践的で多様な教育方法を学習していく。 資格との関連：小学校教諭							
学修上の助言				受講生とのルール			
授業はICT機器の操作の習得だけでなく、保育園・学校等で活用できることを目的としている。また小学校では、学習段階で思考を深めるツールとして活用することを目指している。				ICT機器を有効に活用した学びを意識し、積極的・探求的な受講態度であること。 フィードバック：授業中あるいは、提出物に必要なに応じてコメントします。			

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①	⑥		
			②			
			③			
			④			
			⑤			
	小テスト	0	①	⑥		
			②			
			③			
			④			
			⑤			
レポート	70	①	✓	⑥	✓	（獲得）情報端末やデジタル機器に関する基礎知識を習得し、学校・保育園等でICTを活用する意義を理解できる。（40%） （活用）学校・保育園等における現状や課題を踏まえたうえで、ICTの活用方法の具体を述べるができる。（40%） （解決）ICTの活用が、学校・保育園等の教育活動や授業において、どのような発展や効果が得られるのかを述べるができる。（20%）
		②	✓			
		③	✓			
		④	✓			
		⑤	✓			
平常評価 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	20	①	✓	⑥	✓	（獲得）学校・保育園等園におけるICT活用のための教材研究ならびに教材開発を行うことができる。（40%） （活用）ICTを活用したワークショップ等を実施し、適切に指導を行うことができる。（40%） （解決）他者の教材や指導案、ワークショップ等を適切に評価することができる。（20%）
		②	✓			
		③	✓			
		④	✓			
		⑤	✓			
学修行動 社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	⑥	✓	（主体性）学校・保育園等におけるICTの活用に積極的な関心を持ち、学校・保育園等での教育に生かそうとする。 （実行力）自ら進んでICTを活用した教材等の開発を行い、実際に授業・保育等で指導しようとする。 （課題発見力）現在の授業・保育等においてICTを活用することによって、より発展させることが可能な場面を発見することができる。 （創造力）情報端末やデジタル機器の必要な場面を発見した後、従来の方法に囚われない有効な活用方法を考えることができる。 （発信力）ICTの活用の特徴を理解し、実際の指導に活用することができる。 （傾聴力）ICTの活用について、さまざまな他者からの意見を聴き取ることができる。 （規律性）予習・復習を継続に実施し、課題の提出期限やルールを遵守することができる。
		②	✓			
		③	✓			
		④	✓			
		⑤	✓			
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>到達レベルS 情報活用能力を深く理解し、ICT活用指導力および校務の情報化を有効に活用する方法を述べるができる。保育所保育指針や学習指導要領に示された保育や授業のあり方を深く理解し、ICTの特徴を保育や授業に最大限に生かすことができる。情報端末やデジタル機器を、学校・保育園等で効果的に活用できるだけでなく、適切な操作ならびに管理でき、他者に指導できる。</p> <p>到達レベルA 情報活用能力を理解し、ICT活用指導力および校務の情報化を有効に活用する方法を述べるができる。保育所保育指針や学習指導要領に示された保育や授業のあり方を理解し、ICTの特徴を保育や授業に生かすことができる。情報端末やデジタル機器を、学校・保育園等での教育活動や授業等で有効に活用するために、適切に操作ならびに管理することができる。</p>	<p>到達レベルB 情報活用能力を概ね理解し、ICT活用指導力や校務の情報化の基本的な活用する方法を述べるができる。保育所保育指針や学習指導要領に示された保育や授業のあり方を概ね理解し、ICTの特徴を取り入れた保育や授業等ができる。情報端末やデジタル機器を、学校・保育園等での教育活動や授業等で有効に活用するために、基礎的な操作ならびに管理することができる。</p> <p>到達レベルC 情報活用能力を最低限理解し、ICT活用指導力や校務の情報化の基本的な活用する方法をおおよそ述べるができる。保育所保育指針や学習指導要領に示された保育や授業のあり方を最低限理解し、ICTを取り入れた保育や授業等ができる。情報端末やデジタル機器を、最低限の操作ならびに管理することができる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	○オリエンテーション ○学校園における情報端末・デジタル機器の種類や概要を知る	1. 講義：学校園における情報端末・デジタル機器 2. グループワーク：学校園における情報端末・デジタル機器の種類や概要を、インターネットや学内の探索等を通してまとめる(Google Classroom)	・学校におけるさまざまな情報端末やデジタル機器を挙げることができる	(予習) 学校園における情報端末・デジタル機器を調べる (復習) 学校園における情報端末・デジタル機器の種類や概要をまとめる	180	主体性 課題発見力 傾聴力
2	○校務の情報化の概要を知る ○Notebook LMの活用を知る ○新しいデザインツール等を用いて、教材等の作成を体験する	1. 復習と予習の確認 2. 講義：校務の情報化の概要と授業支援ツール(Google Classroom)の活用 3. 演習：Notebook LMの活用を知る 4. 演習：新しいデザインツールを用いて、それぞれ個人や共同での資料作成等を体験する(Canva等) 5. 復習	・新しいデザインツールを用いて、教材等を作成することができる ・Notebook LMが活用できる	(予習) 校務の情報化について調べる (復習) 校務の情報化が可能な他の事例について調べる	180	主体性 実行力 創造力 傾聴力 規律性
3	○情報モラルの概要を知る ○実践に向けて準備する	1. 復習と予習の確認 2. 講義：情報モラルの概要 3. グループワーク：情報モラルの実践に向けて、それぞれ「ニュース」を考え、プレゼンテーションソフト等を用いてまとめる 4. 復習	・情報モラルの概要を述べるができる ・情報モラルの実践に向けて、まとめを作成できる	(予習) 動画を視聴する「ニュース人狼とは？」 https://youtu.be/hS0F6EFZu7w (復習) 情報モラルの実践に向けたまとめを作成する	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	○情報モラルの実践を通して、様々な教材への応用等の可能性を検討する	1. 復習と予習の確認 2. グループワーク：「ニュース」について発表するとともに、その真偽について検討する 3. 発表：グループで話し合ったことを発表する 4. まとめ：グループワークを通して学んだことを踏まえ、情報モラルのまとめを作成し提出する 5. 復習	・情報モラルの実践を行う ・実践についてまとめを作成できる	(予習) 情報モラルの実践に向けたまとめを作成する (復習) 実践のまとめを振り返り、応用の可能性を具体的に検討する	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコントロール力
5	○生成AI等を活用した学びの動向を知る ○生成AI等を活用した学びを体験する	1. 復習と予習の確認 2. 講義：生成AI等の新しい動向について知る 3. グループワーク：生成AI等で作成した画像をグループで共有する 4. まとめ：生成AI等で作成した画像の特徴についてまとめる 5. 復習	・生成AIの新しい動向について簡単に述べるができる ・生成AI等で作成した画像の特徴を述べることができる	(予習) 生成AI等を活用した授業について調べる (復習) 生成AI等を活用した学びの実践に向けたまとめを作成する	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性
6	○生成AI等の活用の実践を通して、様々な教材への応用等の可能性を検討する	1. 復習と予習の確認 2. グループワーク：人工知能等で作成した画像を、他者と共有することで、表現の変化や意図の伝達について考察する 3. 発表：グループで話し合ったことを発表する 4. まとめ：グループワークを通して学んだことを踏まえ、生成AI等新しい動向のまとめを作成し提出する 5. 復習	・生成AI等の新しい学びの実践を行う ・実践についてまとめを作成できる	(予習) 生成AI等を活用した学びの実践に向けたまとめを作成する (復習) 実践のまとめを振り返り、応用の可能性を具体的に検討する	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 ストレスコントロール力
7	○中間のまとめ	1. 復習と予習の確認 2. グループワークによるまとめ 3. まとめ 4. 復習	・今までの学びを述べることができる ・ワークショップ形式の学びについて述べるができる	(予習) 今までの学びを振り返る (復習) ワークショップ形式の学びについて検討する	180	主体性 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 ストレスコントロール力
8	○ICTを活用した学びを知る(1)	1. 復習と予習の確認 2. アバターによる情報発信 3. プログラミング等を含む組み立て遊び 4. まとめ 5. 復習	・ICTを活用したワークショップ形式の学びについてまとめを作成できる	(予習) ワークショップ形式の学びの具体について調べる (復習) ワークショップ形式の学びの実践に向けたまとめを作成する	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	○ICTを活用した学びを知る(2)	1. 復習と予習の確認 2. 3Dを活用したモデル 3. 3Dを活用したものづくり 4. まとめ 5. 復習	・ICTを活用したワークショップ形式の学びについてのまとめを作成できる	(予習) ワークショップ形式の学びの具体について調べる (復習) ワークショップ形式の学びの実践に向けたまとめを作成する	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
10	○ICTを活用した学びを創造する(1)	1. 復習と予習の確認 2. 講義: ワークショップ形式によるICTを活用した実践について 3. グループワーク: ICTを活用した新しい学びを創造し、グループで共有する 4. 復習	・ICTを活用したワークショップ形式の学びのアイデアを出すことができる	(予習) ICTを活用した学びの実践の具体を調べる (復習) ワークショップの準備を行う	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
11	○ICTを活用した学びを創造する(2)	1. 復習と予習の確認 2. 講義: ICTを活用したワークショップの計画と評価について 3. グループワーク: ICTを活用した新しい学びの実践に向けて準備する 4. 復習	・ICTを活用したワークショップ形式の学びについて計画することができる	(予習) ICTを活用した学びの実践を考える (復習) ワークショップの準備を行う	180	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
12	○ICTを活用した学びの実践を準備する(1)	1. 復習と予習の確認 2. 講義: ワークショップ形式によるICTを活用した学びの実践について 3. グループワーク: ワークショップ形式によるICTを活用した学びの実践の具体を調べ、グループで共有する 4. 復習	・ICTを活用したワークショップ形式の学びの実践のアイデアを出すことができる	(予習) ICTを活用した学びの実践の具体を調べる (復習) ワークショップでの学びの具体を検討する	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコントロール力
13	○ICTを活用した学びの実践を準備する(2)	1. 復習と予習の確認 2. ワークショップ形式によるICTを活用した学びを議論する 3. 復習	・ICTを活用したワークショップ形式の学びの実践を計画することができる	(予習) ICTを活用した学びの実践を考える (復習) ワークショップでの学びの具体を検討する	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコントロール力
14	○ICTを活用した学びを実践する	1. 復習と予習の確認 2. 発表: ICTを活用したワークショップを行う 3. ICTを活用したワークショップについて、相互評価をする 4. 復習	・ICTを活用したワークショップを行う ・ICTを活用したワークショップについて相互評価できる	(予習) 設計したワークショップについて具体的に検討する (復習) ICTを活用したワークショップをより良いものに改善する、他者の評価を見て課題を明らかにする	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコントロール力
15	○本授業のまとめ	1. 復習と予習の確認 2. グループワークによるまとめ 3. まとめ 4. 復習	・今までの学びを述べることができる ・ICTを活用したより良い学びについて追求していく姿勢を持つ	(予習) 本授業を振り返る (復習) ICTを活用したよりよい学びについて、述べるができる	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 ストレスコントロール力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力